

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-96	高等学校	国語科	現代文B	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
183 第一	現 B 340	高等学校 改訂版 標準現代文 B		

## 1. 編修の基本方針

教育基本法第2条ならびに高等学校学習指導要領に示された目標を達成し、学習内容の十分な実現達成をはかり得る、標準レベルの教科書として編修した。

1. 近現代のすぐれた文章に触れることによって、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、内容について理解を深め、適切に表現する能力を養うことができるよう配慮した。
2. 生徒が自主的・主体的に学習活動を行うことにより、思考力・判断力を養い、自発的・創造的な人間形成に進むことができるよう考慮した。
3. 現代社会における問題を具体的に扱った教材を意識的に採録して、さまざまな社会的要請に応え得る人間性の育成に役立てられるようにした。
4. すべての学習の根幹といえる言語の教育としての国語科の立場を重視し、社会で求められる言語力を身に付けさせるとともに、言語文化の理解と享受を通して、これに親しむことができるよう配慮した。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第 章	真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した(第1号)。	p49～57, p138～151
	すぐれた詩を採録し、作品の鑑賞を通して、豊かな情操を養うことができるよう配慮した(第1号)。	p58～69
	主として「言語活動」を通して、生徒が主体性を発揮し、自身の意見や考えを適切に表現する能力を養えるようにした(第2号)。	p112～119, p120～128
	主として文学的な文章を通して、働くことの意味や自主・自律の精神などを示し、職業観・勤労観を養えるよう配慮した(第2号)。	p22～28, p88～97, p98～111, p182～184
	現代社会を取り巻く諸問題を個人の視点から考察した題材を採録し、生徒が自身に引き付けて考えを深められるようにした(第3号)。	p15～21, p40～48, p185～188
	生命のあり方やその尊さについて述べた題材を採録し、生徒が自然や生命を尊重する態度を養えるよう配慮した(第4号)。	p29～39, p61～63, p64～68, p152～179
第 章	言語文化を中心に、我が国の文化について述べた題材を積極的に採録し、興味・関心を喚起できるようにした(第5号)。	p70～80, p81～87, p112～119, p180～181
	国際社会における異文化交流の多様な側面について理解を深められるよう、我が国の文化と他国の文化との違いについて考察した題材を採録した(第5号)。	p8～14, p40～48, p120～128, p129～137
第 章	真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した(第1号)。	p234～240, p241～249, p258～266, p267～277, p316～325, p326～335, p336～348, p349～363

	すぐれた詩を採録し、作品の鑑賞を通して、豊かな情操を養うことができるよう配慮した(第1号)。	p250～257
	「言語活動」を設定し、具体的な学習テーマと事例を示すことで、生徒が主体性を発揮して課題に取り組めるようにした(第2号)。 主として文学的な文章を通して、働くことの意味や自主・自律の精神などを示し、職業観・勤労観を養えるよう配慮した(第2号)。	p364～376 p206～217, p278～292
	現代社会を取り巻く諸問題を個人の視点から考察した題材を採録し、生徒が自身に引き付けて考えを深められるようにした(第3号)。	p198～205, p267～277
	生命のあり方やその尊さ、戦争などについて述べた題材を採録し、生徒が自然や生命を尊重する態度を養えるよう配慮した(第4号)。	p190～197, p218～233, p254～257, p293～307
	我が国の伝統的な言語文化について述べた題材を採録し、興味・関心を喚起できるようにした(第5号)。 国際社会の平和と発展について考えを深めることができるよう、現代の戦争を扱った題材を採録した(第5号)。	p308～315 p293～307
付録等	読書の幅を広げることができるよう、「読書のしるべ」を設定した(第1号)。 「慣用句・ことわざ一覧」「四字熟語一覧」「学校系統図」「近現代文学史年表」および採録した題材の参考写真等を用意し、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、我が国や他国の言語文化に対する興味・関心を喚起できるように配慮した(第1号・第5号)。	見返し、口絵 見返し、口絵, p378～381, p382～383, p384, 折込

### 3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

学校教育法第51条1号「国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと」、また、第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」等の規定を踏まえ、各教材の最後に「学習」として課題を用意し、発表や話し合いを含む多様な学習活動を設定した。教材の主題に対する理解を深め、自らの考えを的確に表現する能力を養うとともに、生徒相互の意見交流を通じて、多角的で客観性のある批判的思考能力を養えるよう配慮した。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-96	高等学校	国語科	現代文 B	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
183 第一	現 B 340	高等学校 改訂版 標準現代文 B		

<p>1. 編修上特に意を用いた点や特色</p> <p>1. 学習指導要領の総則に示す教育の方針や教科としての「現代文 B」の目標を達成するために、次のような配慮をし、ふさわしい教材を用意した。</p> <p>(1) 単元構成、教材選定などにおいては、教育現場の意見・要望を尊重し、学習指導の実態に即応できるよう考慮した。「国語総合」における指導内容をさらに推し進め、文章を的確に読み取り、論理的に思考し、自身の考えを効果的に表現する能力を高められるように内容を精選した。</p> <p>(2) 生徒が自主的・主体的に学習活動を行うことにより、言語文化の理解・享受を通して、自発的・創造的な人間形成に進むことができるよう考慮した。</p> <p>2. 「3 内容」について、次のような配慮をし、ふさわしい教材を用意した。</p> <p>(1) 「指導事項」については、近代以降に書かれた文章の中から、人間、社会、自然などに対する筆者や登場人物の思想・感情を読み味わうことで、生徒の視野を広げ、考えを深めさせることができるものを教材として選定し、学習内容が十分に達成できるようにした。また「オ 語句や語彙と、文章の推敲に関する指導事項」に配慮し、身に付けておくべき表現を「注意する語句」として教材ごとに整理した。</p> <p>(2) 「言語活動例」については、読むことの学習と関連させながら行うことができるよう配慮したほか、主として「言語活動」を通してまとまった学習ができるよう工夫した。</p> <p>ア 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合うこと。主として各教材の「学習」「言葉と表現」に話し合い等の活動を適宜設定し、教材と有機的に関連させながら行うことができるよう配慮した。</p> <p>イ 論理的文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書くこと。「意見文の書き方」(p374)「要約のしかた」(p376)「意見文の書き方」「要約のしかた」として、筆者の中心的な主張を捉えるための手順や、論の展開における基本的な形を示すことで、生徒が文章の構成や論理性を評価する能力を身に付けられるよう配慮した。加えて、各教材の「学習」「言葉と表現」に意見発表等の活動を適宜設定し、教材と有機的に関連させながら行うことができるよう配慮した。</p> <p>ウ 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声、画像などの特色をとらえて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作活動を行ったりすること。「創作の楽しみ・短歌と俳句」(p112)「研究発表のしかた」(p372)「創作の楽しみ・短歌と俳句」では、短歌・俳句を音読し、実際に作ることによって、表現のしかたを考えたり創作活動を行ったりすることの契機となるよう配慮した。また「研究発表のしかた」としてさまざまな研究発表の方法を紹介し、自身の考えを表現するために適した方法を選択できるよう考慮した。</p> <p>エ 文章を読んで関心をもった事例などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりすること。「情報の探し方」(p364)「報告文(レポート)の書き方」(p370)「研究発表のしかた」(p372)「意見文の書き方」(p374)情報検索の方法や効果的な報告文のまとめ方、まとまった文章を書く際の手順や論の構成、口頭での発表における注意点などを解説し、調べたことをまとめて発表するうえでの助けとなるよう考慮した。</p> <p>3. 「4 内容の取扱い」について、次のような配慮をし、ふさわしい教材を用意した。</p> <p>(1) 総合的な言語能力を養うため、話すこと・聞くこと、書くこと及び読むことについて相互に密接な関連を図り、効果的に指導するようにする。主として各教材の「学習」「言葉と表現」に、読み取った内容や自分の考えを文章にまとめる活動や、発表・話し合いなどの活動を取り入れ、各領域の能力を有機的に関連させながら高められるよう配慮した。</p> <p>(2) 生徒の読書意欲を喚起し、読書の幅を一層広げ、文字・活字文化に対する理解が深まるようにする。「読書のしるべ」(見返し・口絵)採録した小説教材の原典と作者を主にあげ、作者の経歴と書籍の概要を解説することで、読書への関心を高められるよう配慮した。</p> <p>(3) 近代以降の文章や文学の変遷について、必要に応じて扱うようにする。巻末の折込に「近現代文学史年表」を用意し、明治以降の主な評論・文学作品と作者を紹介するとともに、採録した教材を色字で示し、作品の歴史的な位置づけを学習できるように配慮した。</p> <p>(4) 教材は、近代以降の様々な種類の文章とする。その際、現代の社会生活で必要とされている実用的な文章を含めるものとする。また、必要に応じて翻訳の文章や近代以降の文語文などを用いることができる。「実用の文章」(p180)主として取材記事を採録し、事実を伝える文章の特徴を考えさせることで、レポートや報告書などを作成する際の手掛かりが得られるよう考慮した。</p>
---

2. 対照表

学習指導要領の内容		指導事項					言語活動例					配 当 時 数
		ア エ、その論理性を評価すること。	イ 文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうこと。	ウ 文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。	エ 目的や課題に応じて、収集した様々な情報を分析、整理して資料を作成し、自分の考えを効果的に表現すること。	オ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てること。	ア 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合うこと。	イ 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書くこと。	ウ 伝えたい情報を表現するためのメディアとしての文字、音声・画像などの特色をとらえて、目的に応じた表現の仕方を考えたり創作的な活動を行ったりすること。	エ 文章を読んで関心をもった事柄などについて課題を設定し、様々な資料を調べ、その成果をまとめて発表したり報告書や論文集などに編集したりすること。	オ 報告書や論文集などに編集したりすること。	
図書の内容	図書の構成・内容 箇所(ページ)											
読書のしるべ	見返し・口絵	○	○	○								
わたしはあなただったかもしれない	8～14	○		○	○	○			○			
「私」という「自分」	15～21	○	○	○	○	○	○	○				
調律師のみ子さん	22～28		○	○	○	○	○					
デューク	29～39	○	○		○	○	○					
新しい地球観	40～48	○	○				○		○			
ヒトはなぜヒトになったか	49～57	○					○		○			
そこにひとつの席が	58～60		○				○	○		○		
この世	61～63		○	○			○	○		○		
永訣の朝	64～68		○				○	○		○		
情けは人の.....	70～80	○		○	○	○			○		○	
「マジ?」	81～87	○			○	○			○		○	
相棒	88～97		○	○	○	○	○	○				
ナイン	98～111		○	○	○	○	○	○				
創作の楽しみ・短歌と俳句	112～119		○				○			○		
コミュニケーションの文化	120～128	○		○	○	○			○			
名所絵はがきの東西	129～137	○					○		○			
鼻	138～151	○	○	○	○	○	○	○		○		
こころ	152～179		○				○	○				
注連縄 つつましく貧しく清楚な形	180～181	○		○								
東京タワー 揺れる天空で決死の塗装	182～184	○	○							○		
ノーベル賞 vs. イグ・ノーベル賞	185～188	○	○						○	○		
ワスレナグサ	190～197	○	○	○			○	○				
食と想像力	198～205	○		○			○					
話を聞かせて	206～217		○				○	○		○		
ひよこの眼	218～233		○				○	○				
記憶のゆがみ	234～240	○	○		○	○			○			
物語を発現する力	241～249	○			○	○			○	○		
食事	250～251		○					○		○		
こころ	252～253		○	○			○	○		○		
日本海	254～256		○				○	○		○		
鏡としての他者	258～266	○					○		○			
僕らの時代のメディア・リテラシー	267～277	○		○			○		○	○	○	
卒業	278～292		○				○	○				
バグダッドの靴磨き	293～307		○		○	○	○	○		○		

学習指導要領の内容		指導事項					言語活動例					配 当 時 数
		ア 文章の構成、展開、 要旨を的確にとらえ、 その論理性を 評価すること。	イ 文章を読んで、書き手 の意図や、人物、情景、 心情の描写などを的確 にとらえ、表現を味わ うこと。	ウ 文章を読んで批評する ことを通して、人間、 社会、自然などについて 自分の考えを深めたり 発展させたりすること。	エ 目的や課題に応じて、 収集した様々な情報を 分析、整理して資料を 作成し、自分の考えを 効果的に表現すること。	オ 語句の意味、用法を 的確に理解し、語彙を 豊かにするとともに、 文体や修辞などの表現 上の特色をとらえ、自 分の表現や推敲に役立 てること。	ア 文学的な文章を読んで、 人物の生き方やその表 現の仕方について話し 合うこと。	イ 論理的な文章を読んで、 書き手の考えやその展 開の仕方などについて 意見を書くこと。	ウ 伝えたい情報を表現す るためのメディアとして の文字、音声、画像な どの特色をとらえて、 目的に応じた表現の仕 方を考えたり創作的な 活動を行ったりすること。	エ 文章を読んで関心をも った事柄などについて 課題を設定し、様々な 資料を調べ、その成果 をまとめて発表したり 報告書や論文集などに 編集したりすること。	イ 文章を読んで関心をも った事柄などについて 課題を設定し、様々な 資料を調べ、その成果 をまとめて発表したり 報告書や論文集などに 編集したりすること。	
図書の構成・内容 箇所(ページ)												
折々のうた	308～315		○	○			○	○	○	○	○	
経験の教えについて	316～325	○	○	○	○	○	○	○	○		○	
新しい博物学を	326～335	○	○	○	○	○	○	○	○			
山椒魚	336～348	○	○	○			○	○				
山月記	349～363	○	○	○			○	○				
情報の探し方	364～369				○						○	
報告文(レポート)の書き方	370～371				○						○	
研究発表のしかた	372～373				○				○	○	○	
意見文の書き方	374～375				○				○		○	
要約のしかた	376	○										
											計	